

普及活動情勢報告（平成20年7月分）

安芸農業振興センター 農業改良普及課

情勢報告

嶺北と土着天敵をつうじたりレー交流



安芸・嶺北地域では一昨年度から、作型の違いを利用した『土着天敵リレー』に取り組んでいる。今年は、6月28日に管内ナス農家のクロヒョウタンカスミカメやタバコカスミカメが増殖している圃場に、夏秋産地の嶺北地域の生産者8名が土着天敵の採取にきた。

この取り組みは、3年目となっており単なる天敵昆虫の受け渡しだけでなく、生産者同士の情報交換の場にもなっている。今後もこの様な産地間交流を継続し、環境保全型農業の取り組みを強化していく。

J A土佐あき園芸研究会 試験展示圃成績発表会が開催される



こんな厳しい時だからこそ、
皆で研究や学習をしていこう！

7月10日、毎年恒例の試験展示圃成績発表会が開催され、94名の農家・関係者が集まった。まずは、全26課題の中から代表で7課題が発表され、農業振興センターからも重点普及課題として取り組んでいる「ナス18tどり農家の経営・技術の普及」に関する取り組みを、栽培・経営の両面から報告した。その後は、畜産農家による家畜ふん堆肥のPRや、宮崎大学の大野准教授による「土着天敵の有効利用」についての講演など、盛りだくさんな内容であった。

農産物価格の低迷や経費の高騰、安全・安心な農産物への取り組みなど、今後益々厳しくなるであろう農業情勢に対して、農家と関係者が一体となって正面から向き合おうとする姿勢がよく見える会となった。

農業改良普及推進協議会を開催



7月14日、農家代表9名、市町村、JA、園芸連に参集してもらい、総勢37名で平成20年度普及指導活動について協議をおこなった。

主な内容は「重油価格の高騰による生産コストの増大や農産物単価の低迷など、逆風のなかの園芸農家の農業経営について」と「集落営農について」が議論され、これらの課題の背景やとらえ方などを確認しあい、対策などを出し合う会となった。

例年より課題を掘り下げた話し合いとなり参考になったので、さらに農家代表等委員と検討して深めながら、日常の普及活動に活かしていく。

芸西村で経営の現状と課題について講演



講演を熱心に聞き入る参加者

7月18日に、JA芸西支所で園芸研究会主催の講演会が開催され、農業振興センターは「ナスを事例とした経営の現状と課題」について講演を行った。内容は、農産物価格の低迷・重油価格の高騰など農家経営にとって厳しい中、目先の利益にとらわれず、自身の栽培や経営をもう一度考え直す必要性を訴えた。当日は各品目の生産者や女性部など約50名の参加者が熱心に聞き入った。

今年で2度目となる経営講演だったが、参加者からは「自分で毎月の収量を記録して、振り返るようにした」や「所得を増やす技術」を考えなければ」などの声が聞かれた。農業振興センターでは、今後も管内各地で同様の講演を行い、生産者の経営改善に向けた意識向上に努めていく予定である。

北川村久府付集落の集落方針について議論しました！！



議論 白熱 !!

「ああでもない、こうでもない」

7月15日「第5回こうち型集落営農推進協議会」が開催された。過去4回の協議会では、アンケート調査の実施と集計、SWOT分析による課題整理を行ってきた。今回は、これまでの活動結果を踏まえて久府付集落の進む方向性について議論し、以下5つの項目が合意された。

- 1 久府付集落の農地は荒らさない、その為の仕組みを構築する。
- 2 集落の農業は共同で行っていく。
- 3 高齢者も含めてみんなが農業に参加できる集落営農を目指す。
- 4 久府付集落の農業は柚子、水稻、野菜の3柱で考えていく。
- 5 集落の伝統を守っていく。

この5項目について、アンケート調査結果と併せて9月の集落全体会議で報告することが決まった。

土着天敵温存ハウス設置グループの交流会



7月24日に管内の11グループ約40名が参加し、土着天敵の増殖・活用技術について意見交換会を開催した。目的は、新たな取り組みであり、みんなで課題や体験談等を出し全体の技術向上を行うこと。

交流会は、農業技術センターから土着天敵の特徴や農薬の影響などについての講演後、取り組みが2年目となる安芸第1グループを中心に取り組みのポイントなどについて積極的な意見交換が行われた。

会の最後には、このような交流会を今後も開催し、技術の確立と向上を進めていくこととなった。このため、取り組みの定着と普及に向け農業振興センターも積極的に支援をしていく。